



**高血圧や高コレステロール血症の薬は一度飲み始めると一生涯
続けなければならないのでしょうか？**

このようなご質問をしばしば受けることがあります。また、薬を飲み続けることに抵抗があり、少しでも治療を先延ばしできないかと考えておられる方や検査データが改善すると病気が治ったと勘違いし、治療を中断してしまう方もみえます。

病気には大きく急性疾患と慢性疾患があります。急性疾患とは、たとえば風邪や肺炎のように比較的短い期間に病気の発症、進行、治癒の経過をたどる病気で、治癒すれば治療終了となります。当然治癒したあとは薬も必要ありません。一方慢性疾患は、今日では生活習慣病として知られる高血圧、糖尿病、脂質異常症など長期に渡り（多くの場合一生涯）治療を継続しなければならない病気です。急性疾患と違い、生活習慣病は自覚症状に乏しいため、健康診断で初めて病気が見つかることがほとんどです。自覚症状がないため、疾患の重大性を認識していただけないことも少なくありません。心筋梗塞、脳梗塞、腎不全（人工透析を含む）など重篤な合併症に至って初めて「もっと早く生活習慣病に気付いて、しっかり管理していれば」と後悔しても遅い言わざるを得ません。なぜなら医学が進歩した今日でも心筋梗塞や脳梗塞は死に至る可能性のある疾患であり、また生活の質を著しく低下させる疾患でもあるからです。とりわけ近年 40 歳代の比較的若年者に心筋梗塞の発症が増加しており、早期から生活習慣病をしっかりコントロールしておくことの重要性をつくづく感じます。従って高血圧、脂質異常症などのお薬は基本的に継続していただくことが大原則になります。しかし、食事や運動など厳格に生活習慣を改善することにより薬を減量し、時には中止しても疾患のコントロールが可能な場合があります。そのような場合でも自己判断でお薬を中断せず、必ず医師にご相談ください。

2014 年 2 月発行

サンライズクリニック 松下豊顯、美濃輪 博英